

2005・第59回

# 読書週間



戦後まもない昭和22年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から読書週間が開催されました。それから読書週間は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本

を読む国民の国」になりました。

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間である限り、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことはわかりません。

暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとり入れていきませんか。

(社団法人 読書推進運動協議会)

## P.S.

1896年生まれのお宮沢賢治は、来年で生誕110年を迎えます。イーハトーブと名づけた故郷(岩手県花巻市)で、農学校の教師、作家として過ごしました。彼の37年間の生涯は、理想と失敗の繰り返しだったと言われていました。今では有名になった数々の作品も、生前は殆ど世に出されることはありませんでした。唯一「注文の多い料理店」だけが生きている間に刊行された童話で、しかも自費出版でした。

農業では最先端の西洋野菜を栽培したり、音楽が大好きで、自らチェロを弾き、自然や植物、動物を愛し、その一方では宇宙や銀河系に思いを馳せ、決して諦めなかった生き方が、賢治の大きな魅力のひとつになっているのかもしれませんが。

「声に出して読みたい日本語」(齋藤孝/著)にもあるように、賢治の作品のおもしろさは、オノマトペ(擬音語・擬態語)や花巻の方言が多く使われているところにあります。

「なにだべ」(なんだろう?)  
 「おう、やっけもんだぞ」(あっ、やわらかいものだ)  
 「なじょな味だた」(どんな味だった?)  
 「味ねがたな」(味はなかったよ)  
 (鹿踊りのはじまり・宮沢賢治/作)

## 児童書

### えほん

- しろくまくんのながいよる ローラ・トンプソン/文  
ともだちになろうよ 中川ひろたか/作
- つる エリナー・コア/文
- せかいあちこちちきゅうたんけん かのさとし/絵・文
- 昆虫とあそぼう とだこうしろう/作・絵
- にじいろのさかなまいごになる マーカス・フィスター/作
- ぼくをそだてて ふくだとしお/作
- ハートのはな しいなえいこ/作
- ステラのほしぞら マアリー=ルイズ・ゲイ/著

### しょうせつ

- リトルボーイ 吉本直二郎/作
- オンネリとアンネリのおうち マリヤッタ・クレンニエミ/著
- いたいのかいじゅうたなごをたすける! キヨノサチコ/作・絵
- アニメ版 ガラスのうさぎ 高木敏子/原作

### ヤングアダルト

- 9月のバラ ジャネット・ウィンター/文・絵
- ウラナリ 板橋 雅弘/著
- 血は哀しみの味 S.メイヤー/著
- みんなのなやみ 2 重松 清/著
- フェルメールの暗号 B.パリエット/著

### そのた

- キッズシェフのためのわくわくクッキング 上田三根子/絵
- その他にも新着図書がたくさん入っています。

## 図書館カレンダー10月

日	月	火	水	木	金	土
.	.	.	.	.	.	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	.	.	.	.	.

印は休館日です

